

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典 2Fユニット		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	平成24年9月23日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>★ 入居者様を中心とした日々の暮らしの確立を図り、又その人らしく生活をして頂く為の個別ケアによる自立支援を行う</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「第2の我が家だと思っただけの安心で安全、笑顔あふれるホーム」をホームのあるべき姿として掲げ、職員間で目標を共有しながら取り組んでいる。今年度においては職員のスキルアップを図るために、内外の研修を充実させ、特に内部研修においては毎月のホーム全体会議後に毎月テーマに沿った勉強会を定着させている。また、利用者への支援についても、利用者一人ひとりの要望に応じた個別ケアのほか、食事の準備では買い物から調理準備、後片付けに至るまで利用者も関わりながら準備を進める事ができるよう各フロア間で取り組みを強化したことで、利用者の活動性も高まっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修や事業所内研修にて地域密着型サービスの意義、理念について共有しており、年間目標・月間目標にて課題を割り振り実践を行っている。	会社の社訓、運営方針、ホームの3年後の目標を事務所に掲示している。職員の理解を深めるために、朝礼時に会社の運営方針を確認しているほか、毎月の月間目標の振り返りをユニットミーティングで行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の買い物や床屋など地域資源を活用し、馴染みの関係性を築いている。散歩の際にも挨拶、会話などコミュニケーションを心掛けている。	地域とのつきあいでは、利用者と一緒に地域サロンに参加するほか、地域行事(盆踊り、運動会、敬老会、餅つき大会等)への参加を通じ、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施し、家族・民生委員・自治会長などに当事業所の取り組み、認知症への理解や普段の支援を公開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事業所内での取り組みを発表。それについての質疑応答、要望などを確認し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に一度定期的実施している。会議には地域包括、民生委員、自治会長、家族の方が参加し、毎回テーマを決め、ホームの取り組み状況や参加者との意見交換を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、運営推進会議や入居希望者の相談について重点的に連絡を取っている。	市の担当課との関係については、運営上の疑問点等がある場合には相談できる体制としている。地域包括支援センターとは、新規利用者に関する事など日頃から連絡を取る事が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の会議の場面などで身体拘束ゼロへの取り組みを勉強会として実施。身体拘束、不適切ケアについて理解しており、取り組んでいる。	法人内にリスクマネジメント委員会があり、ホームからも委員を選出し2カ月に一度委員会を開催し、ユニット会議時に委員会報告を行っている。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修実施、事業所にてマニュアルが作成されており、自由に閲覧出来るようになっている。またグループ内でのリスクマネジメント委員会が組織されており、理解を高めている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修にて勉強会が開かれているが、内容が難しく、理解できていない職員も見られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長から説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や、ホーム入り口に意見箱を設置して反映できるようにしている。	家族からの意見に関しては、面会時や電話報告時に直接伺うほか、ホーム玄関先に意見箱を設置し、意見が表出できる環境を整えている。また、家族交流会(年2回)を実施し、家族からの意見や要望を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、個人面談を定期的に行い、意見を多く聞けるように努力している。	全職員に「個別目標設定シート」を配布し、リーダー、管理者による一次、二次評価を通じ職員と面談し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎月のユニット会議時において職員間で意見交換できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談にて就業環境や目標についての確認、指導を行っている。また、勤務外の余暇などに就業状況など細かい情報共有を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理シートを用いて職員のレベルアップを、事業所内研修、外部研修を受ける機会を設けスキルアップに取り組んでいる。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では交流する機会はあるが、法人外で他事業所と交流する機会と作れていない。。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、D-4シート(センター方式)を活用し、本人の気持ちの動きを読み取れるよう情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを実施するうえで、家族からの要望などを聞き、出来るだけ反映できるように努めている。また来設時などに情報を提供しコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、暫定プランを実施。ご本人、ご家族との面談にて困っている事、必要としている事をアセスメントし、サービス導入に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者への意思確認を行い、日常生活において利用者主体の支援を最優先している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の開催、家族参加型の行事、面会の促し等実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所からの積極的なアプローチはできていないが、馴染みの方の面会時など、快く居られる空間づくりに取り組んでいる。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、友人の来訪や家族の協力を得て、馴染みの場所に出かける事ができるように支援する等、関係の継続性に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の支援から入居者間の関わりを職員が介入し、コミュニケーションを取れるように配慮している。また行事を活用し楽しい時間の共有を心掛けている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、その後の相談や事業所としてできるフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望や発言などから推測し、本人の意向に沿った暮らしの提供を心掛けている。また、意思表示が不明確な方に関しては、実践し情報収集を行い検討している。	利用者の思いや意向については、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者からの要望のほか現状の課題等について収集している。	ケアプラン作成時にはアセスメントを実施し、利用者の課題や要望を収集しているが、各ユニット間において取り組み状況にばらつきが見られる事から、今後の改善に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等へ生活歴を記入していただき、把握している。また日常会話などから過去の生活歴を探っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日のリズムを把握しリズム表を作成。職員が一日をスムーズに送れるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度担当者会議を実施。事前アンケートを取り、情報収集、意見をまとめ介護計画を作成している。	アセスメントの結果を踏まえ担当者会議を行い、職員の意見を踏まえケアプランを作成し、家族にも確認頂き同意を得て、毎月のモニタリングを通じて利用者満足度を確認する仕組みとしている。	一連のケアマネジメントの流れについて、ホーム全体で再度確認をし、各フロア間においてばらつきが無い等、期限が切れている物がないか等、ホーム全体でチェック体制を強化していく事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を介護記録に記入。変化、特変が出てきたらアセスメントを取り、プラン変更の検討に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの変化や認知症の進行具合によって、変化する生活リズムを担当者会議にて検討。その人にあった支援に努めている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、その方にあった地域資源の提供を実施している。地域行事などにも積極的な参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医以外を希望される利用者・ご家族はなじみのかかりつけ医に受診している	ホーム提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護ステーションとも連携し週に一度回診がある。主治医とは24時間連絡が可能であり、急変時においても迅速に対応できる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と職員は健康管理連携記録によって情報共有し連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、定期的に利用者の治療の進行具合を確認し、早期の退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医も交え、ご家族と職員とで話し合いを行い、施設として出来る事を十分に説明し、方針を共有できるよう努めている。	「重度化した場合の対応に関わる指針」において、重度化や終末期に向けた方針を明確にし、「医療連携体制加算同意書」に同意を得ている。重度化や終末期に向けた方針は契約時に説明し、早い段階から方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修や外部研修などで事故発生時の対応やAEDの取り扱い方法などの知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、身につける努力をしている 地域との協力体制は十分とはいえ、今話し合い少しずつ体制を気付いていけるようにしている	災害時備え、年2回避難訓練を実施している。地域との協力体制については、運営推進会議を通じて町会長に協力を依頼し、地域からの協力が得られる体制が築かれた。	

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者として尊厳のある丁寧な言葉掛け、接遇を意識した対応を心がけている。	利用者に対して「尊厳ある声かけ」を徹底していく事を毎朝の朝礼時にホーム長が職員に伝えている。法人全体においても「接遇強化月間」を設ける等、会社全体で取り組みを強化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や、自己決定が出来るような環境づくり、声掛け、対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の支援を心掛けているが、安定した生活を送って頂くため、極力生活リズムに合わせた支援を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に洋服を選んでもらう、起床時に整髪等、個別ケアの実践に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮した食事提供を行っている 自分がやりたいという意思を尊重し、参加を促しており片づけへの意識が高まっている。	食事に関する支援では、準備から後片付けに至るまで、利用者にも参加を促し一緒に取り組めるように支援している。買い物も近隣のスーパーを利用し日々利用者と一緒に出かけている。外食なども適宜取り入れ、食事を楽しむ工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・水分量が不足しているときは利用者の嗜好に合わせた食事、水分の提供を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時に自立を促した口腔ケアの実施。義歯装着の方は週2回の義歯洗浄剤による殺菌・消毒。口腔ケアが難しい方にはマウスウォッシュ等で実践している。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、個別ケアの実践をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを「週間経過一覧表」に記録し、一人ひとりの排泄パターンを共有している。利用者の状態に応じ、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の定期摂取や便通の悪い方への便通改善の食物、飲料の提供。適度な運動の実施に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては、タイミング等至らない部分も見られるが、希望を確認し、入浴をして頂けるよう声掛けの実施に取り組んでいる。	入浴に関しては、利用者のリズムを考慮し、本人の希望も踏まえながら入浴できるように支援している。時間帯を決め入浴する利用者もいるが、希望があれば柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者主体の支援を行えている 起床時間・就寝時間を設けたりせず、個々に合わせた支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の既往歴を把握し、薬の効能、副作用、注意点を理解できるよう努めている。そのために薬係を配置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴、得意な事、趣味を活かし役割作りに参加できている。また、個別支援として行事の計画を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り利用者の希望に沿って散歩等、外出が出来よう支援している。また、対応できる職員の勤務時に限られるが、車を使っての外出支援も実践できている。	各フロアにおいて年間行事予定表を作成し、地域の行事への参加や梨狩りやバスを利用した紅葉ツアー、外食会の実施、家族の協力を得て外出できるよう支援する等、戸外活動の充実に取り組んでいる。	

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を使いたい時は希望に応じていつでも使えるよう支援している。また買い物などを機械にお金を使用する機会に立ち会えるよう実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は希望があった際、本人と便箋を購入しやり取りが出来るよう支援できている。電話は事業所の電話がフロアに備えており、希望者は自由に通話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の表情・体調等に合わせ、共用空間が快適に過ごせるよう支援している 共用空間に花を飾り、季節感を取り入れるようにしている。	利用者が集うリビングには、季節の花を飾るなど季節感を感じられる雰囲気とし、華やかな装飾は避け、利用者が居心地良く暮らせるようにしている。今年度共用部分の床、壁面を新調し、快適性が向上した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が利用者の人間関係の把握に努め、利用者同士が居心地の良い空間で過ごせるような支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との連携を行い、入居時に本人の馴染みのある居室作りを行い、清潔に過ごせるよう定期的な清掃など環境整備を実践している。	居室においては、利用者の馴染みの物を持ちこめることをお伝えし、居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も定期的に行い衛生面にも配慮し快適に利用できるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー化しており、安全面において十分な配慮がされている。		